

オモト

学名： *Rohdea japonica* (Thunb.) Roth 科名：ユリ科



和名であるオモトの名前は、株が太いことからその意味を示す大本（オオモト）が由来と言われています。葉が常緑であることから、長寿の意味として中国では万年青（マンネンセイ）と書きます。日本でも縁起の良い植物とされており、長寿や永遠の繁栄などの花言葉をもちます。祝儀用の生花に用いられるほか、引越しの際にオモトを人よりも先に新居へ移しておくことと方位の難を免れると言われ、鬼門に置かれることがあります。

オモトは観葉植物としても親しまれており、改良を重ねてさまざまな葉の形や大きさ、柄の品種が作られています。

縁起の良い植物とされているオモトですが、毒性が強い植物でもあります。ジギタリスに含まれるジゴキシン、ジギトキシンと似た、強心配糖体のロデイン、ロデキシンという成分を含んでおり、かつては強心薬として用いられていました。しかし、中毒症状として悪心、嘔吐、頭痛、不整脈、血圧低下のほか、全身痙攣を起こして死亡する場合があります。ほどの毒性をもちます。そのため、家庭で生薬として扱うことはしないでください。

生薬名	万年青（マンネンセイ）
薬用部位	全草
薬効	強心、利尿作用
用途	強心薬として用いられていた。 毒性が強いため、家庭では絶対用いてはならない。



キヤツサバ

学名：*Manihot esculenta* Crantz 科名：トウダイグサ科



キヤツサバは熱帯の中央〜南アメリカ原産の高さ2メートルほどに生育する低木です。暑さや乾燥に強いことから、熱帯の主要作物として世界の熱帯各地で栽培されています。花は緑色で花弁はなく、雌雄異花をつけます。薬用部分となる根は芋状に肥大し多数に分岐します。日本でもブームになったタピオカの原料となる植物です。

分類としては、根に含まれる有毒の青酸配糖体の含有量の違いによって、毒性が強い苦味種（含有量0.02〜0.04%）と毒性の少ない甘味種（含有量約0.007%）に分けられます。苦味種は疥癬、下痢、赤痢の治療に用いられるほか、デンプンの製造原料にもなります。苦味種の方は有毒成分を多く含むため、食用とする場合は水にさらしたり、加熱するなどして毒抜きを行う必要があります。海外では過去に処理が不十分なまま加工したキヤツサバのスナックを食べたことにより、死者を出した事件も起きています。甘味種はデンプン源として煮食されます。ともに多少とも青酸配糖体が含まれるため、食用とする際は十分な調理が必要になります。

生薬名	膠飴（コウイ）	局方生薬
薬用部位	根、根茎	
薬効	疥癬、下痢、赤痢	
用途	疥癬、下痢、赤痢の治療薬、食用、デンプン製造原料	